

エネルギーの地産地消を目指して

庄内町では、目指す将来像を「自然はみんなのエネルギー・いきいき元気な田園タウン」とし、これまで風力発電や雪氷熱利用などの新エネルギーの導入や、「節電は新たな発電所を作った事と同じ効果を得る」という発想をもとにした町民節電所事業※の推進など、省エネ活動にも力を注いできました。このような取り組みが低炭素社会の実現に寄与するものであると認められ、平成24年2月、東北経済産業局より「風力・太陽エネルギー部門」で「東北再生可能エネルギー利活用大賞」を受賞し



ました。今後も地域資源を有効利用したエネルギーの地産地消『庄内町モデル』の確立を目指していきます。

※町民節電所事業

町内から参加世帯を募集し、決められた期間内に各家庭で省エネ活動（節電）を実施し、毎月の電気の検針票から削減量を算出する町民参加型の節電事業です。昨年度は693世帯が参加し、42,143キロワットアワーの電気使用量を削減しました。今年度は7月から8月を対象期間に実施する予定です。



復興に向かって 9

「復興まちづくり」に関する支援制度のご紹介
防災集団移転や土地区画整理をはじめとする「復興まちづくり」を進めていく上で、地域住民が主体となり、地区の復興まちづくりを考え、実現していくための活動に対する支援制度を創設しました。支援制度の概要は次のとおりですので、協議会の設置や運営などでお役立てください。

問い合わせ 復興企画課 ☎46-1371

「復興まちづくり協議会運営補助」制度
地域住民が主体となり、概ね行政区を単位とする具体的な復興まちづくりの計画策定・実現のための取組みを行う「復興まちづくり協議会」に対して、運営費を補助する制度です。

〈補助対象となる団体〉
※基本的には以下の条件をすべて満たす団体が対象となります。

- ①復興まちづくりに資する協議や活動等の実施を主たる目的として組織された団体（地域の実情によっては既存の組織を活用して復興まちづくり活動等を実施する

場合も含む。）

- ②行政区を範囲として町内各地域の住民等を中心に構成され、自治会その他の各種地域団体と連携した団体
- ③団体の活動が、住民等の視点から暮らしやすい地域社会の実現を目指すものであること
- ④規約又は会則等を定め、該当する地域の住民等の意見を広く汲み取ることのできる組織・運営体制が確保されている団体
- ⑤自主的、継続的な活動が見込まれる団体

〈補助対象経費〉
復興まちづくり協議会に要する当該年度の経費のうち、復興まちづくり活動等に資

する経費
※予算の定める範囲で、1団体につき年間50万円を上限とします。

※役員報酬及び食事等の経費は対象になりません。

「復興まちづくり支援アドバイザー派遣」制度
復興まちづくり協議会等が、地域における復興まちづくり計画を策定・実施していくために、専門的な知識や技術等を必要とする場合に、町が必要分野の専門家等の支援アドバイザーを派遣する制度です。

〈派遣対象となる団体〉
復興まちづくり協議会、その他復興まちづくりのために組織された住民主体の団体

〈派遣内容〉
①復興まちづくり計画に関する助言・指導・相談
②復興まちづくり計画の取りまとめに係る図面・資料等の作成に関する支援
◎詳しくは、復興企画課へお問い合わせください。

ふるさとには遠きにありて……茅ヶ崎から



各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、東京歌津会会長の千葉幸記さんです。



夢大使
千葉 幸記さん
(茅ヶ崎市)

地点の周囲のみ、他所は連絡不能なはず」と想像で話した。

「ふるさとには遠きにありて思うもの、近くにありて護るもの」もう祈るしかなかった。

募金活動ははじめよう。南三陸へバス旅行仲間の女性部隊の応援を得て、茅ヶ崎駅で「南三陸町に義援金を」の看板をつくり募金活動が始まった。電車は不通、だが多くの市民が支援してくださった。

特に若い人の協力が顕著で、高額の募金やペットボトルいっぱい貯金を家から持参、また募金活動に加わって…等々でした。

あまりの協力で涙する場面もありました。ちょうど地方選挙の時期でもあり、候補者グループもマイクで呼びかけてくれました。

そのような市民のつながりから、中止になった《春の市民祭》の青年たちが《南三陸町復興支援イベント》実行委員会結成・茅ヶ崎市後援で6月4日から5日と開催、支援は今日まで続いています。

ボランティア団体もアリーナ班・歌津班・戸倉班と自然派生して活動していただいております。「本当にありがたいです」

とりあえず、私の第二のふるさと・茅ヶ崎市民への感謝を込めてペンを走らせました。

「がんばらして 南三陸」

3・11の数日前、友人仲間との昼食時、私の住む神奈川県茅ヶ崎市で震度3の地震、テレビから『震源地は三陸沖、津波の心配はない』のテロップが流れました。

話題が津波の事になり、自分は「もし本物の津波が来たら郷里の街は壊滅」と語りました。「本物の津波ってナンダイ」「チリ地震津波や小さい津波が来ているが、子供の頃に聞いた規模のものが未だ来てないんだ」それは「〇〇の家は〇〇まで流され、〇〇屋はここまで、人もナン千人も死んだ」また「津波は地面の下を通過して遠くまで行くんだ」多分いまの液状化現象の事でしょう。子供心にも、どうやって地面の下を通過して行くんだろう。不思議だった。

そして「あの3・11が来た」これまでと違う地震、もしや…三陸沿岸津波警報のテレビ、ああ遂に「本物の津波が来る」と直感した。テレビへの釘づけがはじまる。

マスコミは都市部の報道のみ、南三陸はどのチャンネルにもでない。マスコミに対していらだったのは、私だけではなかった。

12日の夜 ヘリコプターの映像、志津川の街、伊里前地区壊滅の状況は自分のホンモノ以上を超えショックだった。

翌早朝「南三陸町・人口1万7千人の内1万人安否不明」の画面、友人知人が「どうした わかったか」と来る。「多分、道路や橋はダメ、マスコミは入れず情報も一

観光ネット最前線 29 ~子ども達へ…記憶を伝えるプロジェクト~

南三陸町観光協会では、これまで脈々と受け継がれてきたこの町の文化や暮らし、津波による町の風景や暮らしの変化、自然環境・生態系、災害発生時の津波の様子、被災直後の状況、避難所の様子、復旧・復興活動の様子、町の方々が語っている記録、産業に関わる記録などについて、未来を担う子供たちに語り継ぐため、記憶を伝えるプロジェクトを実施いたします。

日々薄れつつある町の記憶を大切に記録するため、地域の皆様から震災前後に関わらず提供していただける画像や動画、書物などを募集いたしますので、ぜひご協力をお願いいたします。

- ◇募集期間 6月15日(金)から7月31日(火)まで
- ◇募集方法 ご提供可能な媒体により個別に対応させていただきますので、下記問い合わせ先までご連絡をお願いします。
- ◇提供方法 デジタルカメラや携帯電話のデータ、SDカード、ハードディスク、CD・DVD、写真などをご提供願います。なお、ご提供いただいた媒体については、こちらでコピーさせていただいた後、返却いたします。
- ◇その他 画像などの提供については、原則として無償提供していただけるものに限ります。また、町や観光協会が発行する広報紙および語り部プロジェクトなどの教材として役立てさせていただきますので、素材の使用に関して承諾いただけるものに限ります。



問い合わせ (社)南三陸町観光協会 ☎47-2550 南三陸町産業振興課観光振興係 ☎46-1378